

2021年1月25日

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

## ブライダル総研 結婚総合意識調査2020

- 結婚の捉え方において、時間的・経済的な余裕が得られるものであると捉えられ始め、家族・親族との関係性に対する考え方にも変化の兆し
- 8割はウエディングイベントを実施し、70.3%はウエディングパーティを実施。何も実施しない層は2割以下にとどまる（※）
- 結婚式準備関与が夫婦でバランスが取れている人は、結婚式を通じて「配偶者との絆の実感」をより感じられる可能性が高い

（※）調査対象者が、2019年4月～2020年3月に結婚した人であり、新型コロナウイルス感染症流行拡大の影響を受ける前の可能性が高い

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都品川区 代表取締役社長 柏村 美生）が運営するリクルートブライダル総研では、結婚や結婚式について詳細を把握するために、「結婚総合意識調査2020」を実施しました。ここに、調査結果の要旨をご報告いたします。

### <結婚に対する考え方> ……………P3

- 結婚生活観において、「自由な時間が得られる」「経済的余裕・安定」「生活が便利になる」といった項目が増加し、「親戚づきあいが面倒」「相手の親の面倒を見なくてはならない」などの家族・親族とのかかわりに関する項目が減少。結婚は、時間的・経済的な余裕が得られるものであると捉えられ始めており、また、家族・親族との関係性に対する考え方にも変化の兆し。

### <結婚を機としたウエディングイベントの実施状況> ……………P4-6

- ウエディングパーティに対する考え方において、「ウエディングパーティは素敵だと思う」が6割を超え、「そう思わない」割合は1割程度にとどまる。また、「自分たちに合ったパーティスタイルがある」「スタイルのバリエーションの広がりを感じる」は半数を超える。結婚を機としたウエディングパーティを“素敵なもの”だと捉え、バリエーションの広がりを実感しており、特に女性はその傾向が強い。
- 80.1%は結婚を機としたイベントを実施し、ウエディングパーティ実施割合は70.3%であり、全くの非実施割合は19.9%。2019年と比較しほぼ横ばいで推移。
- 20代、30代は7割以上がウエディングパーティを実施。再婚層、妊娠層においても6割近くがウエディングパーティを実施している。

### <結婚式準備関与と結婚式を通じて得られること> ……………P7-8

- 結婚式準備において、「フェア参加」「訪問・見学」「相談」「打ち合わせ」など、訪問や第三者に相談するフェーズにおいては、6割、7割は夫婦でバランスよく準備を行っており、「情報収集」「ウエディング小物準備」などの第三者が関わらない準備は女性主導になる傾向。
- 結婚式を通じて得られたことにおいて、結婚式の準備関与状況別に見ると、どのフェーズにおいても、準備関与が平等な“協働型”は、夫婦どちらか一方が多く関与する“シングル型”に比べて、「結婚相手との絆の確認」ができた割合が高い。結婚式準備の関与割合は夫婦関係に影響する可能性が考えられる。

◆ 出版・印刷物へデータを転載する際には、「結婚総合意識調査2020（リクルートブライダル総研調べ）」と明記いただきますようお願い申し上げます。  
 ◆ 「結婚総合意識調査2020」の詳細は、下記広報担当までご連絡ください。

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにない、出会い。」を届けることを目指してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

[https://www.recruit-mp.co.jp/support/press\\_inquiry/](https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/)

### 【調査概要と回答者のプロフィール】

#### ■2020年調査

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

【調査期間】 予備調査：2020年4月17日(金)～2020年6月3日(水)

本調査：2020年5月1日(金)～2020年6月3日(水)

【本調査対象】 “結婚した時期”を「2019年4月～2020年3月」と回答した、20～49歳の既婚者

【本調査集計サンプル数】 1500人

割付：「厚生労働省 人口動態統計 平成30年度婚姻件数・夫-妻の結婚生活に入ったときの年齢(各歳)・夫妻の平均婚姻年齢・初婚-再婚-都道府県別」を基に全国を17エリア×性別×年代(計102セル)ごとの婚姻件数比率に近くなるよう割付を行った

#### 【回答者の男女別結婚時の年齢×居住地域】

		北海道	東北	北関東	北陸甲信越	首都圏	東海	関西	中国	四国	九州・沖縄
男性	20代(19歳含む)	13	24	17	33	96	35	61	25	8	42
	30代	9	15	16	26	91	30	48	14	8	31
	40代	4	6	3	7	31	7	18	5	3	11
女性	20代(19歳含む)	16	28	21	44	130	50	77	26	14	51
	30代	9	15	13	19	78	19	41	13	6	29
	40代	3	3	3	5	16	6	10	4	1	6

\*「東北・男性」「北関東・男性」「北陸甲信越・男性」「首都圏・男性/女性」「九州・沖縄・男性」において、結婚時の年齢を不明処理しているサンプルが各1～2サンプルあり、年齢別分析では除いている

#### 【注意点】

図表の構成比(%)は百分率で表示。百分率は小数第2位を四捨五入してあるため、構成比の合計が100%にならない場合がある。また、図表の平均も小数第2位を四捨五入して表示。

※2020年調査対象者は、2019年4月～2020年3月に結婚した人であり、多くが新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受ける前の結果である可能性が高い。

#### ■過去調査の概要

	2019年調査:本調査(予備調査含む)	2018年調査:本調査(予備調査含む)	2017年調査:本調査(予備調査含む)
調査方法	インターネットによるアンケート調査	インターネットによるアンケート調査	インターネットによるアンケート調査
調査期間	2019年5月10日(金)～ 2019年6月5日(水)	2018年4月9日(月)～ 2018年5月31日(木)	2017年4月7日(金)～ 2017年5月2日(火)
調査対象	結婚した時期が「2018年4月～ 2019年3月」の20～49歳既婚者	結婚した時期が「2017年4月～ 2018年3月」の20～49歳既婚者	結婚した時期が「2016年4月～ 2017年3月」の20～49歳既婚者
集計サンプル	1500人	1500人	1500人
割り付け	厚生労働省「人口動態統計 平均婚姻年齢*：初婚者数・再婚者数」を基に全国を17エリア×性別×年代(計102セル)ごとの婚姻件数比率に近くなるよう割付を行った	厚生労働省「人口動態統計の婚姻件数*」を基に、18エリアごとの婚姻件数比率に近くなるようにサンプル数を割り付けた	

\*2019年調査は平成29年度、2018年調査は平成28年度、2017年調査は平成27年度

#### 【回答者の男女別結婚時の年齢×居住地域】

	2019年調査						2018年調査						2017年調査					
	男性			女性			男性			女性			男性			女性		
	20代	30代	40代	20代	30代	40代	20代	30代	40代	20代	30代	40代	20代	30代	40代	20代	30代	40代
北海道	12	11	4	17	9	2	10	15	5	16	12	2	7	17	5	15	11	4
東北	22	18	5	30	15	3	12	15	18	27	17	2	8	26	12	22	19	5
北関東	12	20	5	21	14	2	10	14	14	21	15	1	10	21	8	17	18	3
北陸甲信越	32	29	7	45	20	4	15	33	14	31	27	5	5	25	29	33	29	1
首都圏	96	94	27	129	78	16	59	120	55	125	90	22	47	111	79	118	102	16
東海	35	28	8	50	18	6	19	35	15	46	21	2	18	29	21	37	27	4
関西	62	45	17	80	41	7	28	59	33	60	53	8	34	56	30	63	52	6
中国	21	15	5	27	14	3	14	21	6	22	14	4	17	21	3	24	16	2
四国	9	9	3	13	6	2	6	13	1	10	9	1	8	7	5	10	7	4
九州・沖縄	41	33	10	52	29	5	28	41	16	42	37	5	20	41	25	47	34	5

※各年：20代には19歳を含む

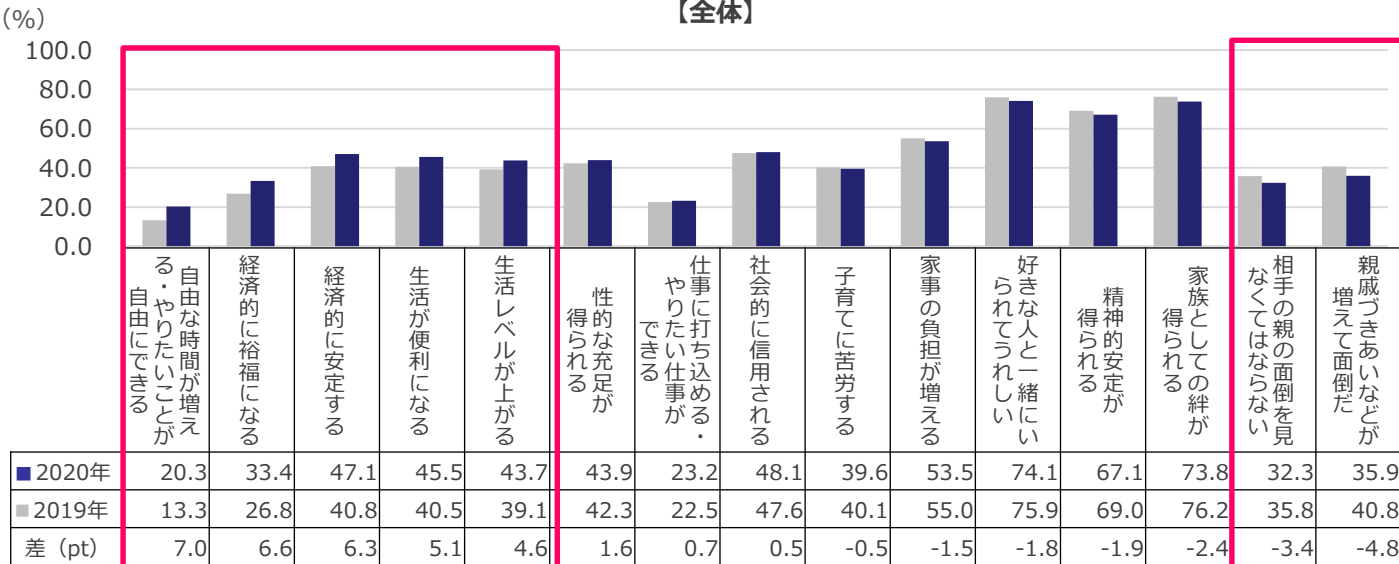
※2019年調査：「北海道・男性」「東北・男性」「首都圏・男性」「関西・男性」「中国・男性」において、結婚時の年齢を不明処理しているサンプルが各1～3サンプルあり、年齢別分析では除いている

※2018年調査：「北陸甲信越・男性」「首都圏・男性」「関西・男性」「関西・女性」「中国・女性」「九州・沖縄・女性」において、結婚時の年齢が不明処理しているサンプルが各1～2サンプルあり、年齢別分析では除いている

※2017年調査：「北陸甲信越・男性」「首都圏・男性」「首都圏・女性」「東海・女性」「関西・男性」において、結婚時の年齢を不明処理しているサンプルが各1～2サンプルあり、年齢別分析では除いている

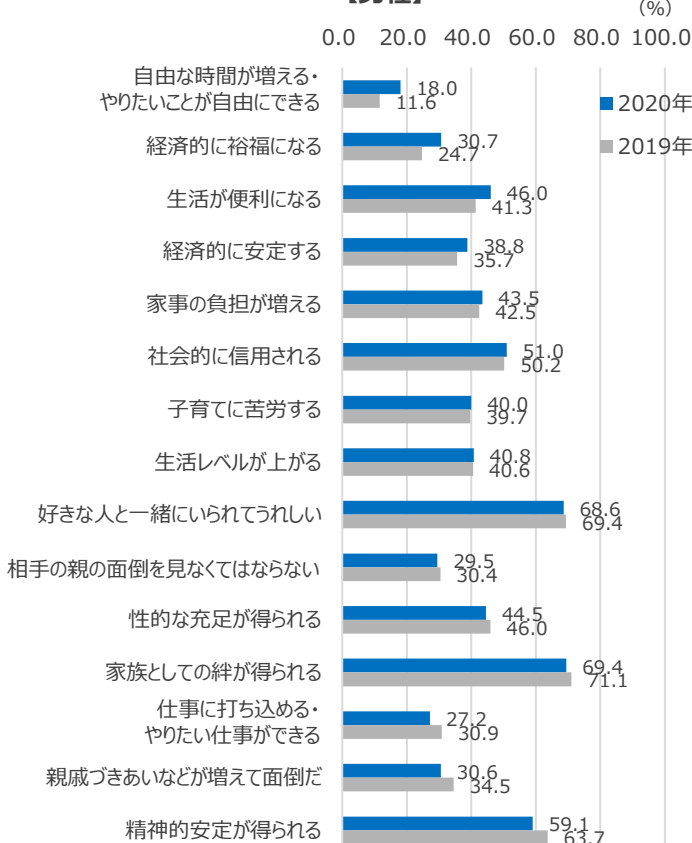
結婚生活観において、「自由な時間が得られる」「経済的余裕・安定」「生活が便利になる」といった項目が増加し、「親戚づきあいが面倒」「相手の親の面倒を見なくてはならない」などの親族とのかかわりに関する項目が減少。結婚は、時間的・経済的な余裕が得られるものであると捉えられ始め、また、家族・親族との関係性に対する考え方にも変化の兆し。

■ 結婚生活観（結婚してどのように変わる・変わったと思うか）（全体・性別／各単一回答／非常にそう思う・ややそう思う計）  
【全体】



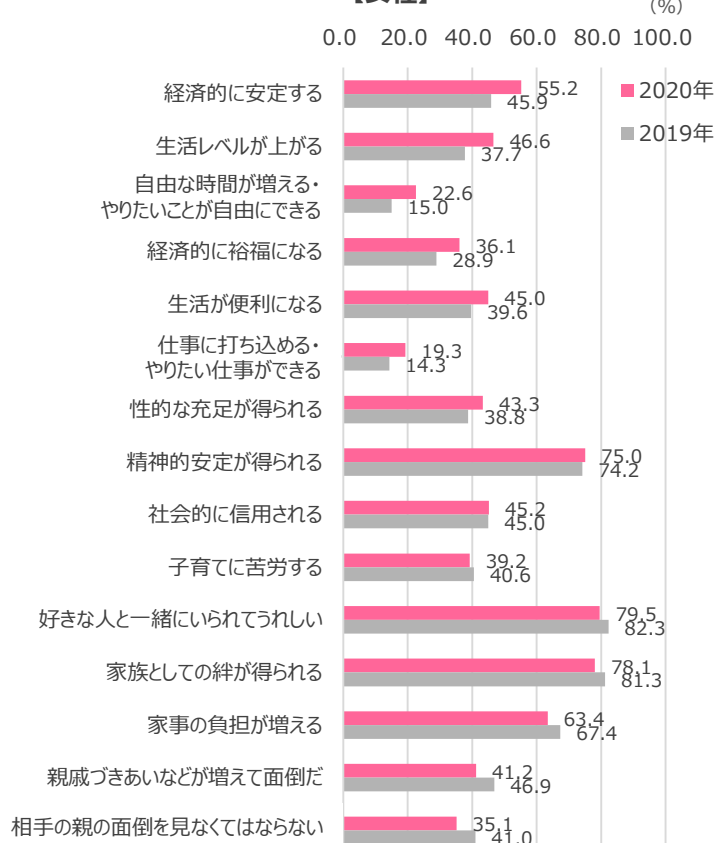
※2019年、2020年値は小数点第2位以下を四捨五入して表記しているため、表記と差の計算値が一致しない場合がある  
※20年-19年の差の降順でソート

### 【男性】



※20年-19年の差の降順でソート

### 【女性】



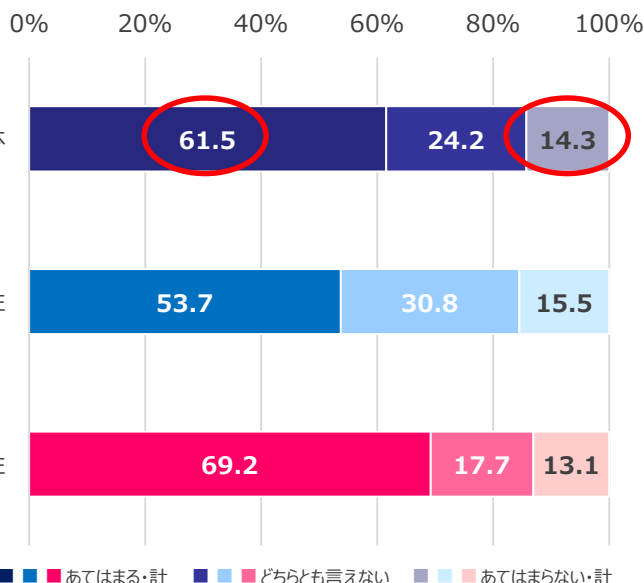
※20年-19年の差の降順でソート

## 結婚に際し実施するウエディングパーティに対する考え方（全体／男女別）

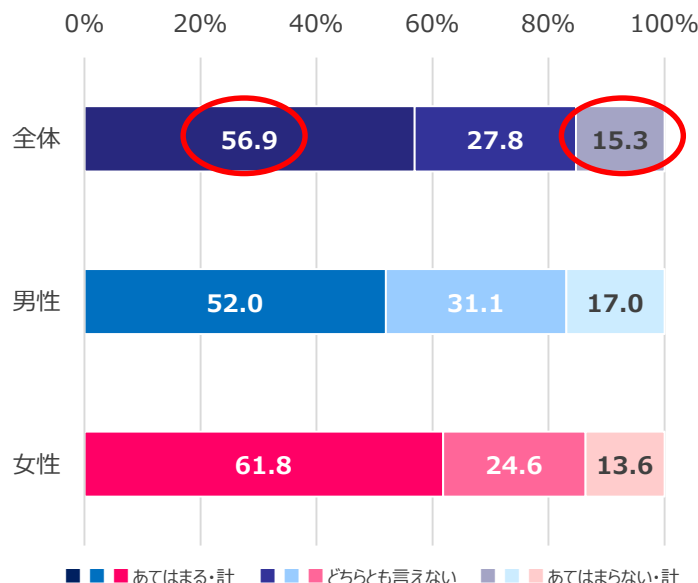
ウエディングパーティに対する考え方において、「ウエディングパーティは素敵だと思う」が6割を超え、「そう思わない」割合は1割強にとどまる。また、「自分たちに合ったパーティスタイルがある」「スタイルのバリエーションの広がりを感じる」はそれぞれ半数を超える。結婚を機としたウエディングパーティを“素敵なもの”だととらえ、バリエーションの広がりを実感しており、特に女性はその傾向が強い。

### ■結婚に際し実施するウエディングパーティに対する考え方（全体・性別／各単一回答）

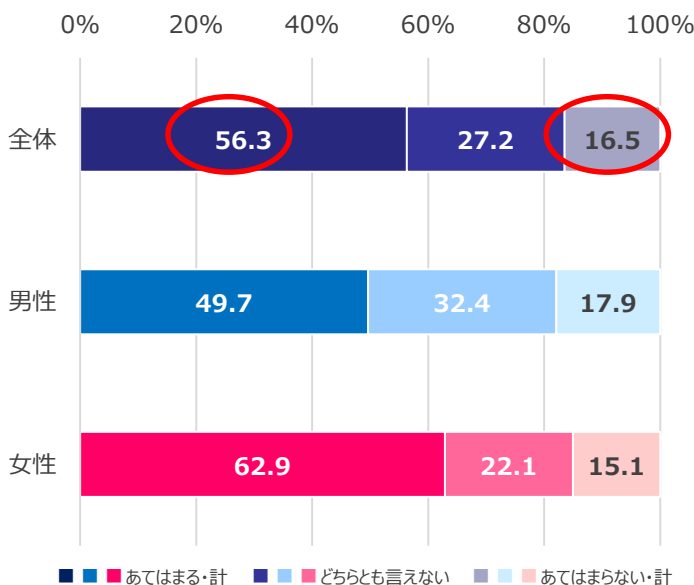
【ウエディングパーティは素敵だと思う】



【自分たちに合ったウエディングパーティのスタイルがあると思う】



【ウエディングパーティのスタイルのバリエーションは広がっていると感じる】

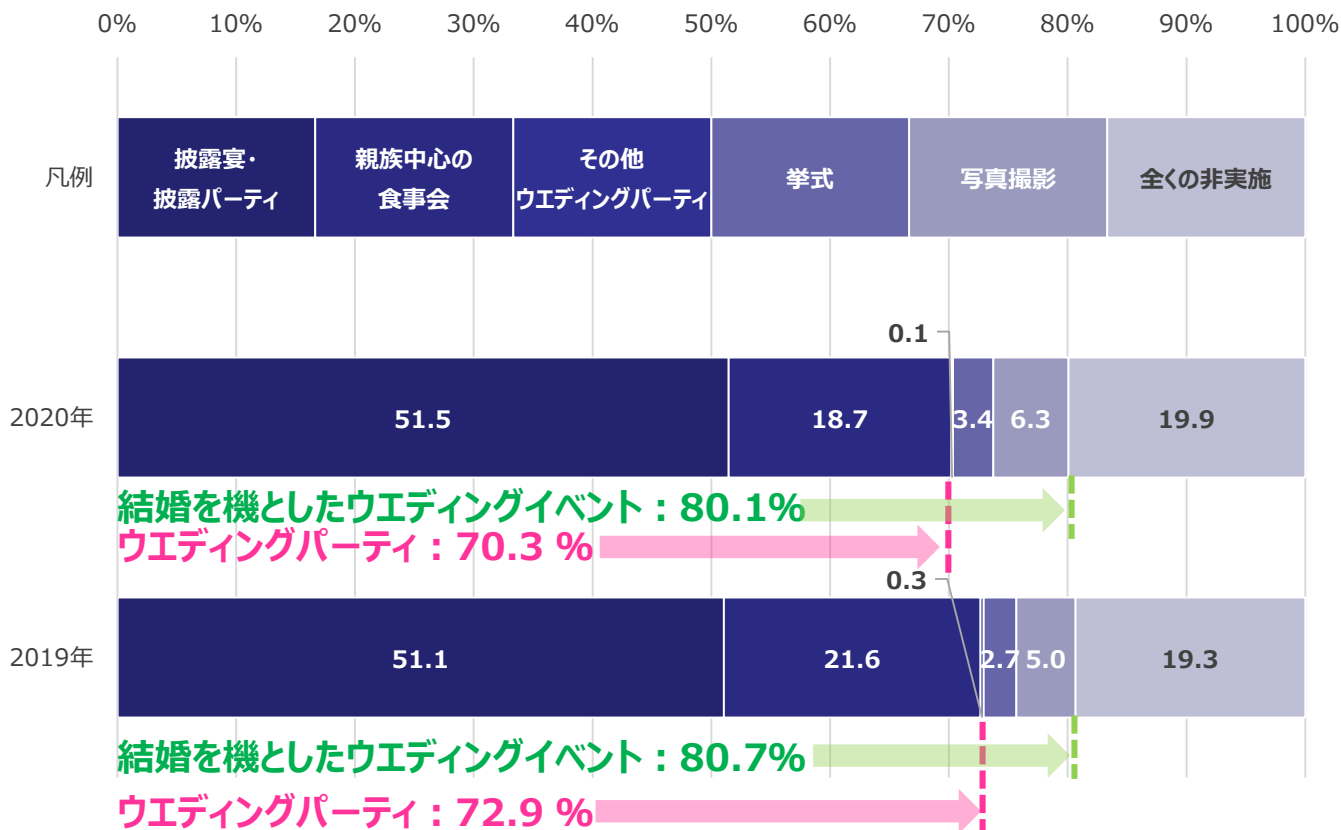


※あてはまる・計：「非常にあてはまる」「ややあてはまる」/あてはまらない・計：「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」

80.1%は結婚を機としたイベントを実施し、ウエディングパーティ実施割合は70.3%であり、全くの非実施割合は19.9%。2019年と比較しほぼ横ばいで推移。

### ■結婚を機としたイベント実施状況（全体／単一回答）

※ウエディングパーティ：「披露宴・披露パーティ」「親族中心の食事会」「その他のパーティ」の総称



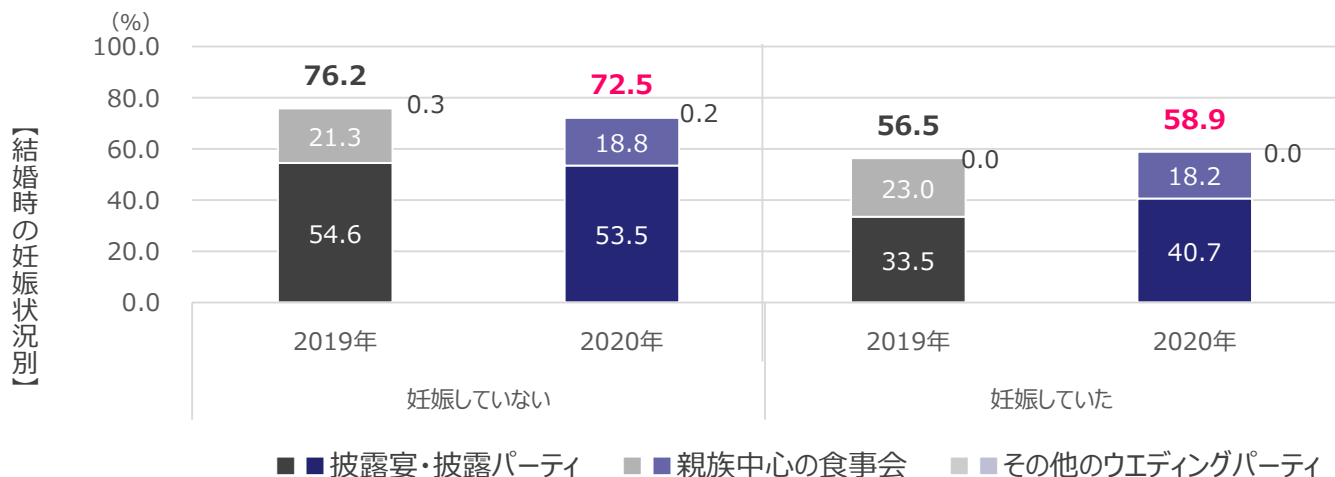
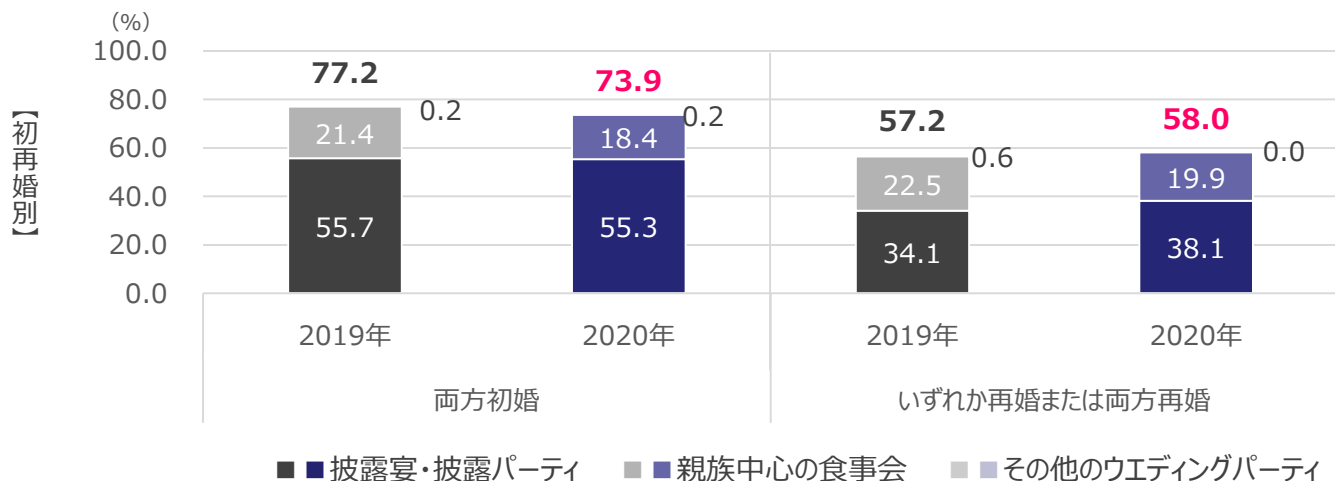
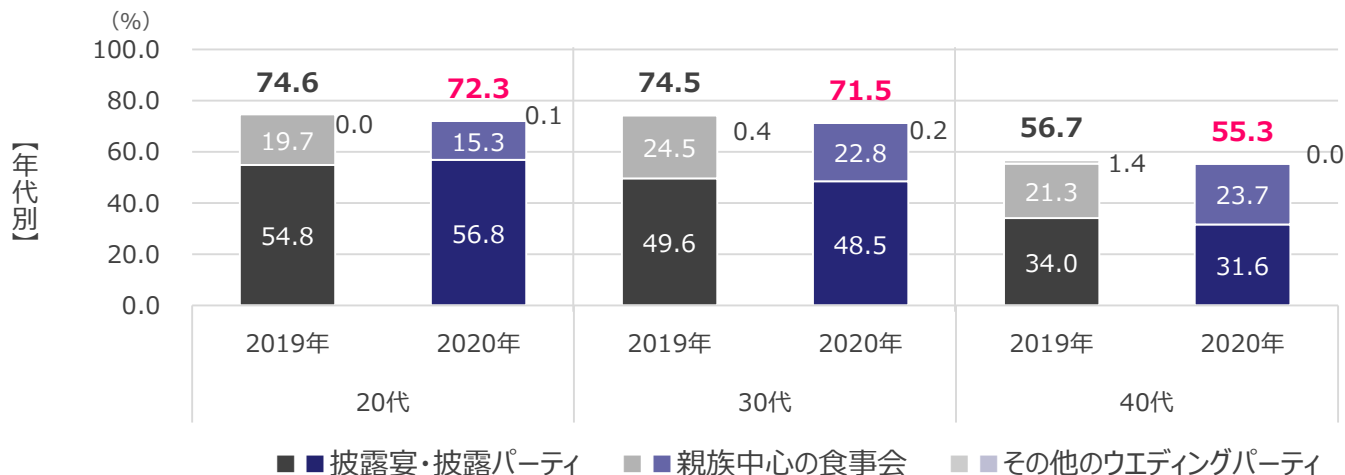
実施したイベント（実施予定＜内容・時期決定＞含む）をいくつかも選択した結果を組み合わせる単一回答化している。組み合わせは以下の通り

- 披露宴・披露パーティ実施者：「披露宴・披露パーティ実施かつ、親族中心の食事会、その他のウエディングパーティ、挙式、写真撮影のいずれか、あるいはすべて実施」と「披露宴・披露パーティのみ実施」
- 親族中心の食事会実施者：「親族中心の食事会実施かつ、その他のウエディングパーティ、挙式、写真撮影のいずれか、あるいはすべて実施」と「親族中心の食事会のみ実施」
- その他のウエディングパーティ実施者：「その他のウエディングパーティ実施かつ、挙式、写真撮影のいずれか、あるいはすべて実施」と「その他のウエディングパーティのみ実施者」
- 挙式実施者：「挙式実施かつ、写真撮影実施」と「挙式のみ実施」
- 写真撮影実施者：「写真撮影のみ実施」

## ウエディングパーティの実施割合（年代別／初再婚別／妊娠状況別）

20代、30代は7割以上がウエディングパーティを実施。再婚層、妊娠層においても6割近くがウエディングパーティを実施している。

### ■ウエディングパーティ実施割合（年代別／初再婚別／妊娠状況別／それぞれ単一回答）



※太字は披露宴・披露パーティ、親族中心の食事会、その他ウエディングパーティの合計値（ウエディングパーティ実施率）  
※各実施率は小数点第2位以下を四捨五入して表記しているため、表記との合計値が一致しない場合がある

結婚式準備において、「フェア参加」「訪問・見学」「相談」「打ち合わせ」など、訪問や第三者に相談するフェーズにおいては、6割以上は夫婦でバランスよく準備を行っており、「情報収集」「ウエディング小物準備」などの第三者が関わらない準備は女性主導になる傾向。

### ■結婚式の準備における夫婦の準備関与割合（各準備を行った人／各単一回答）





## 結婚式を通じて得られたこと（結婚式準備関与割合別）

結婚式を通じて得られたことにおいて、結婚式の準備関与状況別に見ると、どのフェーズにおいても、準備時の関与が平等な“協働型”は、夫婦どちらか一方が多く関与する“シングル型”に比べて、「結婚相手との絆の確認」ができた割合が高い。結婚式準備の関与割合は夫婦関係に影響する可能性が考えられる。

### ■ 結婚式準備の関与割合別にみた、結婚式を通じて得られたこと (各準備を行った人/各単一回答/非常にそう思う・ややそう思う計)

※協働型：男女の関与割合が4～6割/シングル型：男性主導（男性関与が7割以上）または女性主導（女性関与が7割以上）

（自分と）結婚相手との絆やつながりを確認できた

